

キャンドルを手に誓いの言葉を述べる学生ら—
川口市の総合文化センターリリア音楽ホール



ナイチンゲールに誓うつ

戸田中央医科グループ(戸田市本町、中村隆俊会長)が運営する戸田中央看護専門学校(中村毅校長)の本年度の「戴帽式」が、川口市の総合文化センター・リリア音楽ホールで行われた。

戴帽式は、入学してから一定期間、看護の基礎を学び、看護師の資質があると認められた学生に、看護の象徴であるナースキャップを与える儀式。同校では1977年の開学以来実施しており、この日は看護学科の1年生122人が戴帽の儀に臨んだ。

舞台の中心にナイチンゲール像が置かれ、パイプオルガンの音色が静かに鳴り響く中、壇上でナースキャップを戴き、

戸田中央看護専門学校

1年生122人が戴帽の儀

ナイチンゲールの看護の心を受け継ぐキャンドルをともした。

式辞で中村毅校長は「痛みやけがを『手当てする』』という言葉があるが、昔は手当てその力で病を癒やすことができた」と考えられていた。技術の進歩で医療は大きく発展したが、今もなおコミュニケーションやスキップが不安を和らげ、心の手当てへとつながる。温かい心を持って寄り添い、心の手当てをできる看護師になってほしい」と激励した。

学生たちは成長、結束、心をキーワードに「真心を込め患者に寄り添い愛し愛される豊かな心を育みます」と凛とした表情で誓いの言葉を述べた。(土沢貴弘)

